

給食のこん立て

6月に給食のこん立てを考える授業がありました。まず、こん立てを書く紙と、どんなメニューがあるかの紙をもらいました。ぼくは、その紙を見ながら、「しゅんの食材を使いたいな」、「地元食材は最低でも2つは使いたいな」と思い、最終的にきのこピーマンの2つを使うことができたのでよかったです。しゅんの食材はなしにしました。秋らしい料理にするために、たきこみご飯にきめました。次はみんなに発表しました。まず、しゅうへい君が言いました。夏バテにならないサラダがあったので、9月だから季節的にはいいかなと思いました。ぼくは、たきこみご飯、ニラ豚、カラフルピーマンのサラダ、なしを選びました。つぎの人が言う前にチャイムがなりました。こん立てを考えろのは難しかったので、栄養士さんはいつも大変だなと思いました。



(佐賀小学校 6年 濱田 充希)

考古学教室

6月22日に出前考古学教室がありました。まず、県内にある遺跡などの勉強をしました。遺跡がどういう場所であり、また、なぜそのような場所に多く遺跡があるかなども考えました。旧大方町にも、90個近くの遺跡があるということに驚きました。次に、実際の遺物を見せてもらいました。いちばん古いもので13000年前のものがありました。昔は技術が発達していなかったため、主に石や土などを使ったもので生活していたことがわかりました。最後に火起こし体験をしました。火を起こす工夫がたくさんありました。やってみると、力が必要で少しやっただけでつかれてしまいましたが、火を手に入れるためにもとても苦労していたことがわかりました。



(田ノ口小学校 6年 松本 大和)

活気ある黒潮町を取り戻すために

大方中学校では、生徒会執行部が中心となって全校で「Wiierプロジェクト」に参加し、各学級で1つ、青い旗の作成に取り組みました。私たち3年生は、手形で「Wiier」という文字を作りました。私は旗の作成に携わり、みんなの姿を見ながら、一人ひとりが今自分にできることを考え、行動し、協力し合っていたことです。それを地域に広げ、町の人たちと協力し合っていくことが、元の活気ある町を取り戻すために必要だと感じました。今は新型コロナウイルスの感染拡大の恐れがあり、今までどおりの生活ができずに、地域にも不安な思いを抱えている人がたくさんいます。私たちが作成した旗がみんなを励まし、元気づけられたらいいな、と思います。



(大方中学校 3年 田邊 ころろ)